

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成28年12月
福島県 小野町

3) その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
		基準年度		目標年度		確認年度						
目標1												
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画上全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1.B-1.2.C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2.C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	55,853千円
市町村名	小野町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-1

1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○町内の公園の遊具を更新することにより、原発事故後運動機会が減少してしまった子どもたちの運動機会を確保し、運動不足の解消と健康増進を図る。

【区域全体図】



中央さくら保育園・小野わかば幼稚園 遊具



飯豊ひまわり保育園 遊具



夏井おおすぎ保育園 遊具



浮金つつじ児童園 遊具

【事業詳細】

- (1)事業概要
- ① 中央さくら保育園・小野わかば幼稚園 (田村郡小野町大字小野新町字万景上8番地) 複合遊具(すべり台、登はん遊具、ぶら下がり遊具等)、4人用ブランコ等の撤去及び設置(遊具7機設置)
 - ② 飯豊ひまわり保育園 (田村郡小野町大字飯豊字寺下51番地) 複合遊具(すべり台、登はん遊具等)、5連低鉄棒等の撤去、設置等(遊具5機設置)
 - ③ 夏井おおすぎ保育園 (田村郡小野町大字夏井字町屋43番地5) 複合遊具(すべり台、登はん遊具等)、4連ブランコ等の撤去、設置等(遊具6機設置)
 - ④ 浮金つつじ児童園 (田村郡小野町大字浮金字須和間180番地) 複合遊具(すべり台、登はん遊具等)、4連ブランコ等の撤去、設置等(遊具6機設置)

- (2)実施状況 工事契約締結:平成26年7月7日 完成:平成27年1月30日
 原発事故後は放射能による健康被害の不安から外遊びを制限していたが、遊具が更新されたことにより、外遊びの時間が確保された。また、一般開放についても各地区において周知を図っている。

- (3)人口の流出及びそれにより生じている地域の振興における支障
 【人口の増減】 原発事故後、放射能による健康被害の不安から人口の流出が懸念されたが、安心安全な町づくりを重点事業として推しすすめ、生活空間の除染や教育施設等の遊具更新事業により、放射能の不安による顕著な人口減少はみられなかった。(人口・・・H26.7月:10,469人 H28.11月:10,272人 *自然減の範囲)

- 【運動機会の確保】 放射能の影響による健康被害を懸念し、屋外活動に不安を持つ保護者も多かったが、遊具が更新され運動する環境が整備されたことにより、子どもたちの運動機会が確保された。女子の肥満は改善の傾向にあり、また男女とも肥満度の高い子どもの比率が改善しており、遊具更新による効果が徐々に現れていることが確認された。
 (未就学児の肥満の割合 H25 男子 13.5% 女子 13.0% H28 男子 14.7% 女子 10.7%)

- (4)有識者の意見 平成28年10月25日 小野町教育委員会議での意見聴取
 遊具が更新されたことにより放射能による健康被害の不安がなくなり、外遊びの機会が増えたことは大変喜ばしい。今後は、地域にも周知し、更なる利活用と子どもたちの健康増進を期待する。



中央さくら保育園・小野わかば幼稚園遊具お披露目(H26.12月)



飯豊ひまわり保育園遊具利用状況(H27.1月)

事業計画推進による効果・変化(注2)

○町内の幼児施設の遊具を更新することにより、放射能による健康被害を心配することなく安心して外遊びができる環境が整備され、子どもたちの運動機会の確保が図られた。
 ○未就学児の肥満度の割合が、女子は平成25年の13.0%から平成28年には10.7%と改善の傾向にある。男子の目標未達成要因は、当初の想定よりも事業効果の発現に時間を要したためと考えている。男女とも肥満度の高い子どもの比率が改善しており、遊具更新による効果が徐々に現れていることが確認された。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○肥満の子どもは外遊びを苦手とする傾向にあることから、各施設の保育士と連携し、遊具を利用して体を動かすことの楽しさや様々な遊具に挑戦することを奨励し、肥満の解消に努める。また、外遊びの時間を増やすことで健康の増進を図り肥満をなくし、目標達成に向け今後もフォローアップを行う。

(注1)様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	34,513千円
市町村名	小野町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-2

1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○町内の公園の遊具を更新することにより、原発事故後運動機会が減少してしまった子どもたちの運動機会を確保し、運動不足の解消と健康増進を図る。

【区域全体図】



飯豊小学校 遊具



小野新町小学校 遊具



浮金小学校 遊具



夏井第一小学校 遊具

【事業詳細】

(1)事業概要

- ① 飯豊小学校 (田村郡小野町大字飯豊字浮内46番地) はんとう棒、ジャングルジム等の撤去、設置等(遊具8機設置)
- ② 小野新町小学校(田村郡小野町大字小野新町字万景43番地) 20人用はんとう棒、ジャングルジム等の撤去、設置等(遊具6機設置)
- ③ 浮金小学校 (田村郡小野町大字浮金字林内177番地) ジャングルジム、7連鉄棒等の撤去、設置等(遊具5機設置)
- ④ 夏井第一小学校 (田村郡小野町大字夏井字太子堂60番地) 4連ブランコ、ぶら下がりの遊具等の撤去、設置等(遊具6機設置)

(2)実施状況

工事契約締結:平成26年7月7日 完成:平成27年1月30日
 原発事故後は放射能による健康被害の不安から屋外活動の時間を制限していたが、遊具が更新されたことにより、屋外活動の時間が確保され休み時等も積極的な遊びが増えた。また、一般開放についても各地区において周知を図っている。

(3)人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障

【人口の増減】 原発事故後、放射能による健康被害の不安から人口の流出が懸念されたが、安心安全な町づくりを重点事業として推しすすめ、生活空間の除染や教育施設等の遊具更新事業により、放射能の不安による顕著な人口減少はみられなかった。(人口・・・H26.7月:10,469人 H28.11月:10,272人 *自然減の範囲)

【運動機会の確保】 放射能の影響による健康被害を懸念し、屋外活動に不安を持つ保護者も多かったが、遊具が更新され、運動する環境が整備されたことにより、子どもたちの運動機会が確保された。全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男女ともに健康の増進と運動能力の向上が確認された。特に「上体起こし」「立ち幅とび」「反復横とび」等の全身運動能力の向上に効果の発現が見られる。

- 小学生の体力テストの総合点平均・・・H25 男子51.31点 女子57.08点 H28 男子52.00点 女子58.00点
- 小学生の肥満傾向児(20%以上)の出現率・・・H25 男子16.87% 女子11.72% H28 男子18.60% 女子17.90%

(4)有識者の意見 平成28年10月25日 小野町教育委員会議での意見聴取

遊具が更新されたことにより放射能による健康被害の不安がなくなり、外遊びの機会が増えたことは大変喜ばしい。今後は、地域にも周知し、更なる利活用と子どもたちの健康増進を期待する。



小野新町小学校 利用状況 (H27.4月)



浮金小学校 利用状況 (H27.3月)

事業計画推進による効果・変化(注2)

○町内の小学校の遊具を更新することにより、放射能による健康被害を心配することなく安心して外遊びができる環境が整備され、子どもたちの運動機会の確保が図られた。
 ○小学生の体力テストの総合点平均において、男子は平成25年に51.31点から平成28年は52.00点に、女子は平成25年に57.08点から平成28年に58.00点と運動能力が向上している。遊具を更新し、子どもたちが放射能による健康被害を心配することなく運動できる機会を拡充したことにより、男女ともに健康増進と運動能力向上が確認された。肥満の改善については時間を要すると思われるが、男女ともに低学年に肥満減少が見られ、遊具の更新による幼児施設からの遊びや運動機会の拡充による効果が確認されている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○今後も、遊具や新設した多目的運動施設を活用して体を動かすことの楽しさやスポーツ活動の促進とPRに努める。さらに学校と連携し、遊具を活用した遊びやスポーツ活動を奨励することにより、健康の増進と運動能力の向上を図り、今後もフォローアップを行う。

(注1)様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	18,285千円
市町村名	小野町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-3

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○町内の公園の遊具を更新することにより、原発事故後運動機会が減少してしまった子どもたちの運動機会を確保し、運動不足の解消と健康増進を図る。

【区域全体図】



小野公園 遊具



万景公園 遊具



緑とのふれあいの森公園 遊具

【事業詳細】

(1) 事業概要

- ① 小野公園 (田村郡小野町大字小野新町字美売65番地1) ブランコ等の撤去、遊具5機設置
- ② 万景公園 (田村郡小野町大字小野新町字万景上48番地) ジャングルジム、すべり台等の撤去及び複合遊具(ジャングルジム+すべり台)の設置
- ③ 緑とのふれあいの森公園 (田村郡小野町大字小戸神字宮ノ前397番地2) ウッドステップスストレッチの更新

(2) 実施状況

工事契約締結:平成26年7月7日 完成:平成27年1月30日
 原発事故後は放射能による健康被害の不安から公園利用等の屋外活動が制限されたが、町内の公園遊具が更新されたことにより、安心して屋外活動や外遊びができるようになった。また一般開放についても各地区において周知を図っている。

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の振興における支障

【人口の増減】 原発事故後、放射能による健康被害の不安から人口の流出が懸念されたが、安心安全な町づくりを重点事業として推しすすめ、生活空間の除染や教育施設等の遊具更新事業により、放射能の不安による顕著な人口減少はみられなかった。(人口・・・H26.7月:10,469人 H28.11月:10,272人 *自然減の範囲)

【運動機会の確保】 放射能の影響による健康被害を懸念し、屋外活動に不安を持つ保護者も多かったが、遊具が更新され、運動する環境が整備されたことにより、子どもたちの運動機会が確保された。未就学児の女子の肥満は改善の傾向にあり、また男女とも肥満度の高い子どもの比率が改善している。小学生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男女ともに健康の増進と運動能力の向上が確認された。

●未就学児の肥満の割合・・・H25 男子13.5% 女子13.0% H28 男子14.7% 女子10.7% ●小学生の体力テストの総合点平均・・・H25 男子51.31点 女子57.08点 H28 男子52.00点 女子58.00点 ●小学生の肥満傾向(20%以上)の出現率・・・H25 男子16.87% 女子11.72% H28 男子18.60% 女子17.90%

(4) 有識者の意見 平成28年10月25日 小野町教育委員会議での意見聴取

遊具が更新されたことにより放射能による健康被害の不安がなくなり、外遊びの機会が増えたことは大変喜ばしい。今後は、地域にも周知し、更なる利活用と子どもたちの健康増進を期待する。



小野公園 利用状況 (H27.4月)



万景公園 利用状況 (H27.7月)

事業計画推進による効果・変化(注2)

○町内の公園の遊具を更新することにより、放射能による健康被害を心配することなく安心して外遊びができる環境が整備され、子どもたちの運動機会の確保が図られた。
 ○未就学児の肥満度の割合が、女子は平成25年の13.0%から平成28年には10.7%と改善の傾向にある。小学生の体力テストの総合点平均において、男子は平成25年に51.31点から平成28年に52.00点に、女子は平成25年に57.08点から平成28年に58.00点と運動能力が向上している。小学生の肥満の改善については時間を要すると思われるが、男女ともに低学年に肥満減少が見られ、遊具の更新による幼児施設からの遊びや運動機会の拡充による効果が確認されている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○遊具を利用して体を動かすことの楽しさや様々な遊具に挑戦することを奨励する。外遊びの時間を増やすことで健康の増進を図り肥満をなくし、目標達成に向け今後もフォローアップを行う。公園遊具が更新されたことを保護者や地域住民に対し周知し、子どもたちの運動不足の解消と健康増進を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

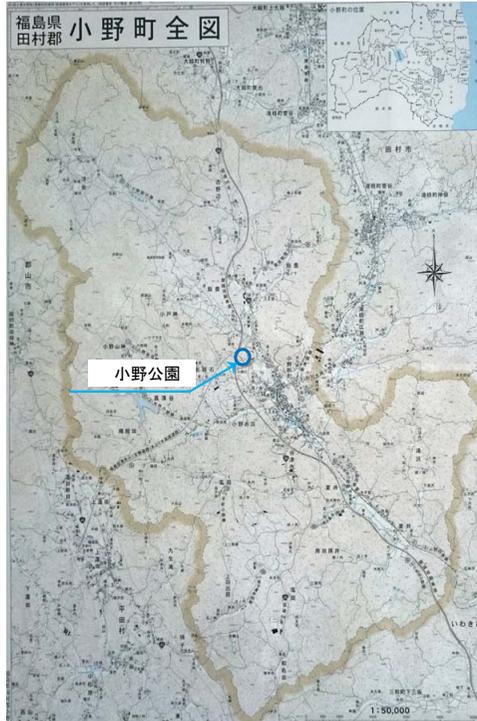
県名	福島県	交付期間	平成26～27年度	交付対象事業費	318,857千円
市町村名	小野町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	C-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○小野公園内に多目的運動施設を整備することにより、運動機会が減少してしまった子どもたちの運動機会を確保し、運動不足の解消と健康増進を図る。

【区域全体図】



施設外観

【事業詳細】

(1) 事業概要(以下の場所に屋内多目的運動施設の整備)

- ①設置場所 田村郡小野町大字小野新町字美売65番地1
- ②建物整備内容 屋内多目的運動施設 836㎡ 床:砂入り人工芝 テニスコート1面 フットサルコート1面

(2) 事業の実施状況

平成27年8月11日 工事契約締結

平成28年3月28日 完成

【利用状況】月別利用者数(大人も含む)

平成28年	4月 434人	5月 367人	6月 420人
	7月 379人	8月 399人	9月 558人
	月平均 426人		

【利用詳細】

・利用料金	町内 1時間500円(高校生以下無料)
	町外 1時間750円
・利用時間	9時～21時30分

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障

【人口の増減】原発事故後、放射能による健康被害の不安から人口の流出が懸念されたが、安心安全な町づくりを重点事業として推しすすめ、生活空間の除染や教育施設等の遊具更新、当該施設の建設等の対策により、放射能の不安による顕著な人口減少はみられなかった。(人口…H26.7月:10,469人 H28.11月:10,272人 *自然減の範囲)

【運動機会の確保】震災後、放射能の不安により外遊びが制限されるなど、運動不足及び体力の低下が懸念された。屋外活動に不安を持つ保護者も多かったが、当該施設の新設により運動する環境が整備され子どもたちの運動機会が確保された。小学生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男女ともに健康の増進と運動能力の向上が確認され、低学年に肥満減少がみられるなど、事業実施による効果が表れている。

- 小学生の体力テストの総合点平均…H25 男子51.31点 女子57.08点 H28 男子52.00点 女子58.00点
- 小学生の肥満傾向児(20%以上)の出現率…H25 男子16.87% 女子11.72% H28 男子18.60% 女子17.90%

(4) 有識者の意見 平成28年10月25日 小野町教育委員会議での意見聴取
施設の新設により、放射能による健康被害の不安がなく子どもたちの運動機会が確保されたことは大変喜ばしい。今後はさらに周知を図り広域的な利用の促進と交流人口の増加を期待する。



落成式(H28.4月)



利用状況(H28.6月)

事業計画推進による効果・変化(注2)

○小野公園内に整備した多目的運動施設により、放射能の不安や天候に左右されることなく子どもたちの運動機会の確保が図られた。また、夜間照明の完備により運動時間が拡大し安全に活動することが可能となった。
○小学生の体力テストの総合点平均において、男子は平成25年に51.31点から平成28年は52.00点に、女子は平成25年に57.08点から平成28年に58.00点と運動能力が向上している。肥満の改善については時間を要すると思われるが、男女ともに低学年に肥満減少が見られ、多目的運動施設の新設により子どもたちが放射能による健康被害を心配することなく運動できる機会を拡充したことにより、健康増進と運動能力向上が確認された。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○スポーツ少年団を中心とした利用の定着化を図り、子どもから大人まで多様なスポーツ活動の利用促進とPRに努める。また、町ホームページで同施設を広報宣伝し、広域的な利用の促進と交流人口の増加を図るなど、今後もフォローアップを行う。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。